

大空間・低コストを実現するCLT活用システム

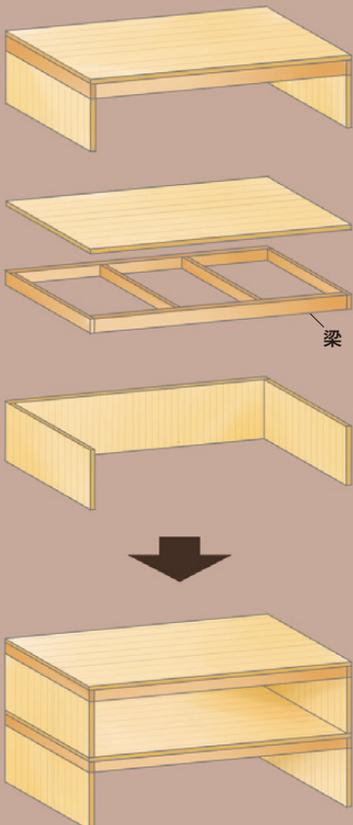
TEシステム

CLT壁パネルの上に、床梁または屋根梁を配置するCLTパネル工法です。
ロングスパンに対応し、開放的な空間づくりと自由度の高い設計を実現できます。
軸組工法や木造ラーメンとの併用が可能で、部分使いもできるため、コストダウンにも貢献。
「TEシステム」は木造建築新工法性能認証*を取得しています。

*公益財団法人日本住宅・木材技術センターの認証制度



TE システム



1 開放的な空間

TEシステムはCLT壁上に設けた梁で床を支持することが可能のため、CLT床だけで床を構成する一般CLT工法では実現が難しかった、オープンで開放的な空間やロングスパン空間の実現が可能となります。

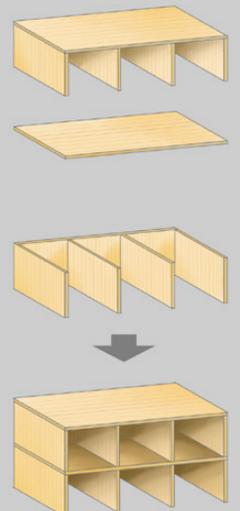
2 自由なプラン

TEシステムはCLT壁上に設けた梁によりロングスパン化が図れるとともに、CLT壁接合部の高強度化が図られているため、一般CLT工法と比べて構造上必要となる壁量が縮減されます。これにより、構造壁に制約されないフレキシブルなプランニングが可能となります。

3 コストダウン

TEシステムは柱梁フレームとの併用も自由に設計が可能のため、例えば、CLTの部分使いといった、適材適所設計によるコストダウンが可能となります。

一般 CLT 工法



TEシステムの 鉄骨ハイブリッドへの応用

1 CLTをより使いやすく

オール木造とすることに縛られず、一般的な鉄骨造建物に適用することが可能です。構造要件や耐火要件に制約されずに、より広く一般的な建物でCLTを用いることができます。

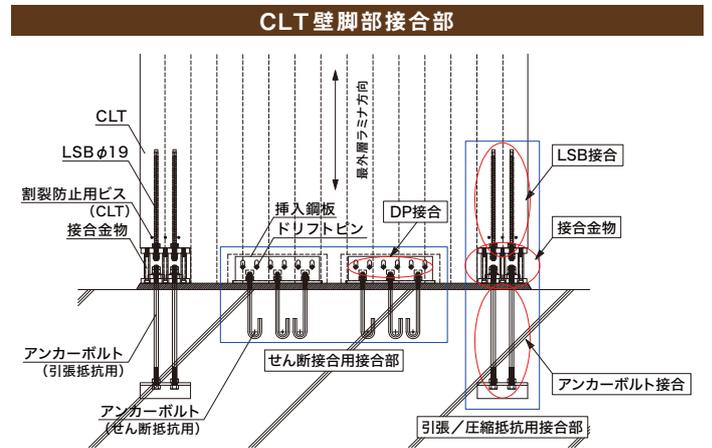
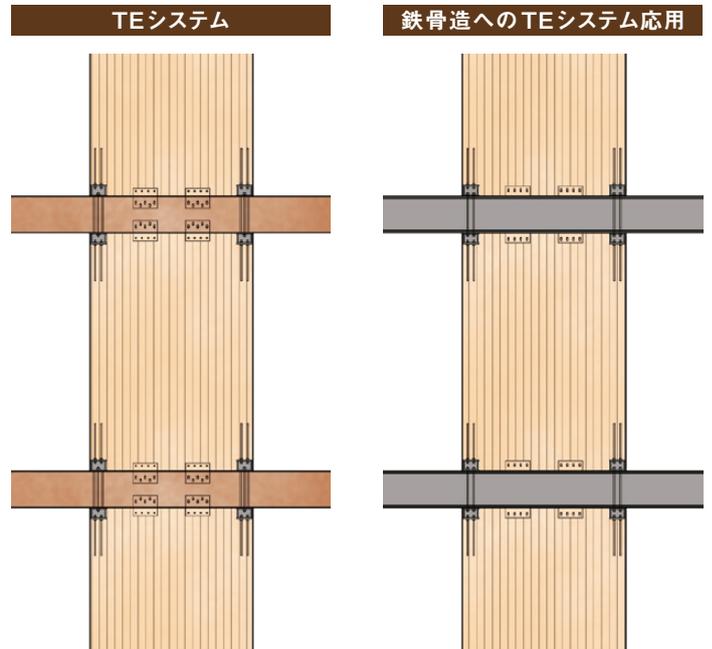
2 CLTの「現し」利用が可能

CLT壁は鉛直荷重を支持せずに耐震部材としての役割を担うため、耐火・準耐火建築物においても耐火被覆や燃え代設計が不要で、CLTをそのまま「現し」で使うことができます。

3 適材適所な設計

鉄骨造との混構造のため、CLT壁が負担する耐力の割合は自由自在に調整が可能です。意匠計画やコストに合わせて適材適所な設計をすることができます。

※注 TEシステムの鉄骨造への応用や耐火建築物でのCLT現し利用等については確認検査機関との事前協議が必要です。



鉄骨造へのTEシステム応用イメージ